

# 噴火当時の新聞記事

昭和 37 年（1962 年）の焼岳火山の噴火に関する新聞記事（写し）を収集しました。

<資料提供者>

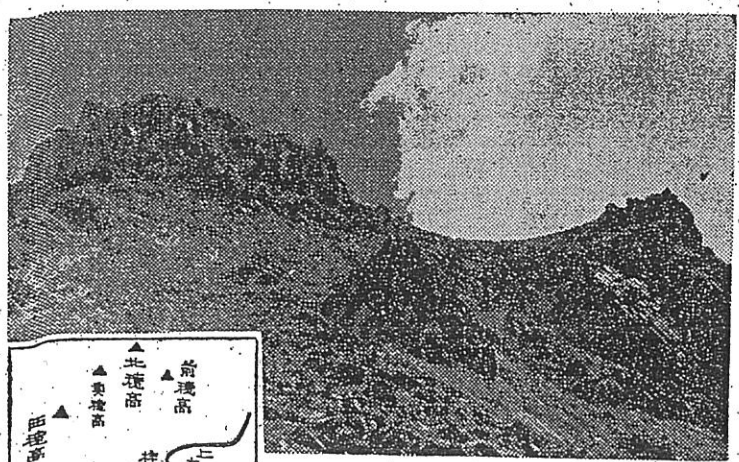
筒木重市氏

提供記事：信濃毎日新聞、毎日新聞、朝日新聞

※岐阜日日新聞（現岐阜新聞）については岐阜県において収集したものです。

# 北ア焼岳、30年ぶり爆発

## 噴煙二千、上高地に降灰



十七日夜、北アルプス焼岳(標高二、四五八呎)が噴火した。噴火の規模はつきりしないが、三十年ぶりの噴火で、焼岳小屋をで宿泊している登山者、小屋従業員が安否が気にかけている。

焼岳は午後九時五十分ごろ、もすこしゴ音とともに噴火、頂上から黒い煙がふきだした。上高地辺では火柱はみえなかったといふが、午後十一時なほ煙

噴火まえの焼岳頂上をきん

と灰が上高地の夜空いっぱいになり、午後十時すぎ、一時は頂上が黒煙でさかすかになった。そのほか、上高地から焼岳方面への登山者は約二百人、ほとんどもが同日下山した。

たが、焼岳小屋、西麓小屋には約二十人が宿泊しているもよう。とくに、頂上宿舎の焼岳小屋には従業員二人が宿泊しており、同夜地元、安曇村消防団二十人の救助隊が現地に向かった。

焼岳は、日本アルプス上高地の南西、長野、岐阜の県境にある鐘状活火山で、頂上付近はいつでも噴煙をあげている。焼岳の噴火は、大正四年のものが、もっとも大きく、このとき溶岩が流れたとして梓川をせき止め、大正池ができた。その後は、大正十一年から十四年、昭和二年、昭和六年、七年にそれぞれ爆発があり、昭和二十八年には噴火はなかったが鳴動、地震があった。

上高地西麓屋主人奥原教永さんの話、ゴ音といふものすこし音がしたので、外にこぼしたり焼岳の小屋付近から黒煙が空いっぱいになりだした。まもなく頂上はみえなくなったので、山容をかえてしまふほどの噴火ではなかったが、昭和のはじめにあった噴火のうしろみはなかつた。黒い灰が上高地でもまわっている。心配してゐる。

**ふもとの部落民が避難**

岐阜県本郷部にはいった情報によると、北アルプス焼岳の噴火で、ふもとの岐阜県本郷部上室村中尾部落の十七戸八十七人が避難を始めた。

**噴火、地下水移動と関連か**

岐阜県本郷部上室村中尾部落の十七戸八十七人が避難を始めた。

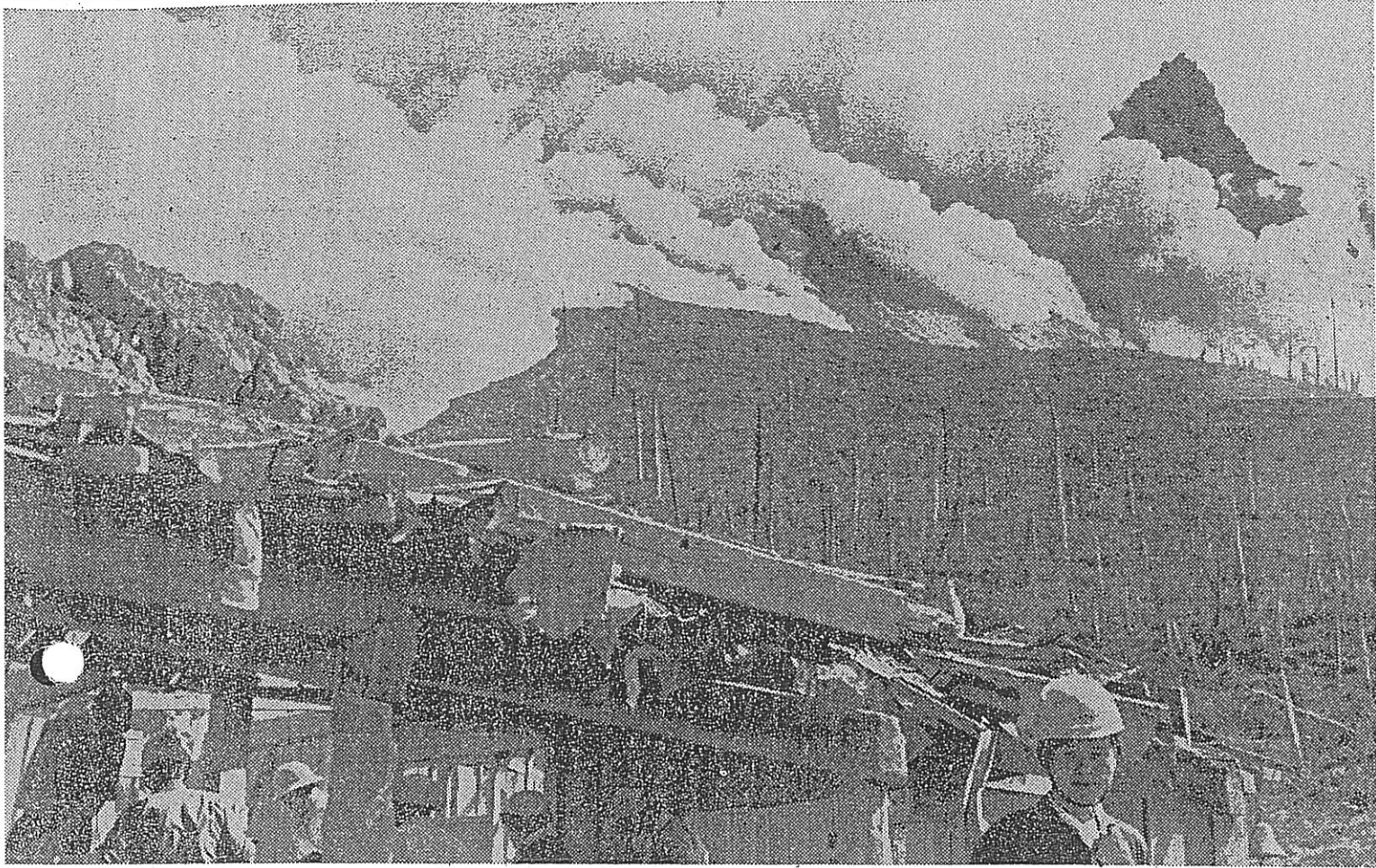
地鳴りと爆発音、きのこ雲

帝岡ホテル管理人木村種さん(北ア避難救助隊長)の話、ゴ音といふ地鳴りと爆発音は、きこえて外にこぼすと、きのこ雲は、あがり、みる間に高五千呎くらいになった。間もなく、きんきんといふ黒いガスが、いっぱいになりだした。何ともみえなかつた。灰があたりはじめたが、いぜん地鳴りと鳴動が、いっさい、爆発した位置は、溶岩の火もみえなかつた。噴煙の出た場所からみて中腰、岐阜県側でみている。私が上高地には、ここのから昭和六年まで小規模な噴火は、いたが、ここの大規模な噴火は、

信大文理学部で地質学を担当する亀井勉太郎氏は、焼岳噴火について、きのこ雲に話した。

焼岳は乗鞍火山帯に属し、活火山として、その生命は終わりにかけている火山だ。さうきんは、地下水の移動もある。で、この噴火はこれに関連があるのではないか。湯田山とつながって、観測体制が、まもなくなので、これからの噴火の手測は、きんきん、ここのあつたは、危険な状態が、いつの間にか、ここのあつたは、





爆発でこわれた肩の小屋ふきんにも噴煙がただよう

# 腰まで灰に埋まる

## 九死に一生を得た 箱で火山弾を防ぐ

落ちてくる火山弾をのがれ九死に一生を得た。■さんは、収容された西穂山荘で、「かんづめ」を入れた箱を頭の上で火山弾を防いだ。噴火から一時間ほど小屋のなかじゅうとじていたが、すぐなかで感じた。落石が落ちたところへ逃げたが、どう逃げたか無我夢中だった。このときの表情で語った。噴火は午後八時ごろからはじまった。二人ともわきまきに着かえてラジオを聞きながら雑誌をみていたが、午後十時ごろだった。突然、シートの木の爆発音を大きくした。その金剛性の音がした。おもしろい小屋が上下にゆれはじめた。一瞬「噴火だ」とおもい二人で勝手場を避難したが、屋根を破って石が落ちてはじめてので私は物置きに逃げた。かんづめのはいた箱を頭の上でつけてうすくまった。このとき■さんは外に逃げたのではないかとおもった。一時間ほどうすくまっていたが、箱が小さいので

やむ手なくかきつきたら、さびに容赦なく石が落ちてきた。箱に石が当たるとたじろぎががががした。懸命にたえた。よめよめと音がおわったので逃げつづけていたが、腰まで灰でうすくまっていた。うすくまっていたが、うすくまっていた。

## 一夜で緑から灰色に

### 上高地 降灰で飲料水使えぬ

恐怖の噴火を目の前にした上高地は前夜から快晴のため標高の白い噴煙が夜目にもくまりと見え、旅館の宿泊客、従業員約二百人は、十八日午前三時ごろまで河

緑から灰色に景色が一変した。木の灰はわずかな風にもあたり一面にうすつき、すべてが灰色がかった風景だ。

○：十八日朝上高地には約四十



# 焼岳の噴火

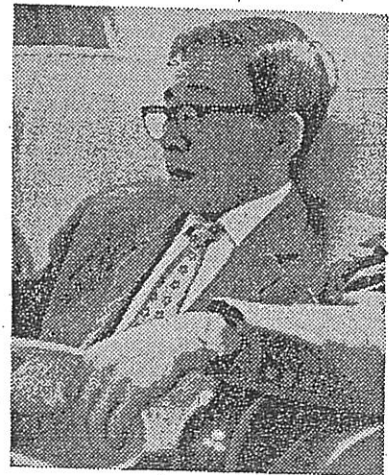


小林信大教授に聞く

西穂山荘ふきんから見た焼岳の噴煙

## 連続爆発あるまいが 山体老化で警戒必要

十七日夜の北焼岳爆発について、信大文学部地質学教授の小林信大教授は十八日、「爆発の両容をこれから調べるつもりだが、今回の爆発は一本小規模の爆発といえる。火山活動は未だ知られていないので、連続爆発の可能性はありはないと断言するが、山体が老化しているのだから、いっしょに警戒が必要だ」と注意を要するよう語った。



語る小林教授

焼岳は老衰した火山なので、このうち本格的な爆発は一般にはむしろ意外な感を生ずる。噴煙が四、五百尺、地震計などに前兆現象はつきりなかったとすれば、一応爆発は小規模のものだろう。焼岳は、乗鞍火山帯に属し、群峰の安山岩からできている火山だ。南には御岳、乗鞍岳、北にはとろろ岳、祖父岳などがある。この火山帯は、火山活動が末期にはいっており、溶岩の出口は少なくガス噴出が爆発的になりがちだ。乗鞍、御岳もガス爆発をもちも

わっている。

焼岳はこれまで、明治四十五年に大爆発が起り、それから一、二年爆発がなかったが、大正四年には大きな爆発で溶岩が梓川をせきとめ大正池をつくった。昭和六十七年にも爆発があり、そのとき少しづつ噴煙をあげてきた。本格的な火山活動のはじめは、はつきりした前兆現象はつきりせず、今回の爆発ははつきりしたまじりしなかった。

末期の火山なので、このうち本格的な爆発が起る可能性はありはないと断言する。しかし焼岳は山体が老化しているのだから、比較的小きな爆発でも山へすれをたす危険性がかなり高い。

このまじり、泥流が梓川をせきとめ、せきぎわの被害を発生させるなど、いっしょに警戒を要する。泥流は、いっしょに警戒を要する。金澤、焼岳山が爆発で山体

がくずれ、川をせきとめて、その大きな湖をつくった例もある。このまじり、泥流が梓川をせきとめ、せきぎわの被害を発生させるなど、いっしょに警戒を要する。泥流は、いっしょに警戒を要する。金澤、焼岳山が爆発で山体

### トロイ型 の山頂部

今回発表された焼岳は、長野・岐阜両県境、北山脈の西端に位置する山頂部は、火山群中唯一の活火山である。それゆえその地質は山麓で雄大な噴煙は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

## 焼岳の噴火によせて

……近くに常時観測所がないのは遺憾……

焼岳はトロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

### 小坂丈子

## 文口化

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

### 明治44年に は22回の噴火

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

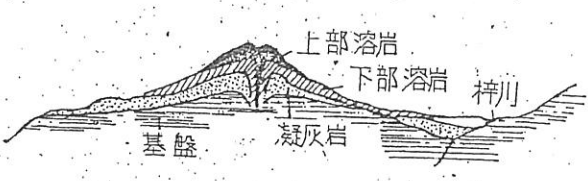
### 全く平穏だ った数年間

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

### 火山性泥流 の防止策を

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

……焼岳の断面図……



焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

焼岳の噴火は、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙が、約1000メートルの高さから、粘性のたまり、トロイ型の噴煙がなると、トロイ型の山頂部を形成している。トロイ型の山頂部は、噴煙の一角ずつ、トロイ型の山頂部を形成している。

# 再爆発の可能性も

## 諏訪気象庁 常時観測体制が必要



五 氏 氏

十七日、五氏は、諏訪の噴火をめぐり、常時観測体制の必要性を訴へた。五氏は、噴火の発生は、予知が不可能であるが、噴火の発生を察知し、避難の準備を整えることが重要である。常時観測体制の導入により、噴火の発生を早期に察知し、避難の準備を整えることが可能となる。五氏は、噴火の発生は、予知が不可能であるが、噴火の発生を察知し、避難の準備を整えることが重要である。常時観測体制の導入により、噴火の発生を早期に察知し、避難の準備を整えることが可能となる。

五氏は、噴火の発生は、予知が不可能であるが、噴火の発生を察知し、避難の準備を整えることが重要である。常時観測体制の導入により、噴火の発生を早期に察知し、避難の準備を整えることが可能となる。五氏は、噴火の発生は、予知が不可能であるが、噴火の発生を察知し、避難の準備を整えることが重要である。常時観測体制の導入により、噴火の発生を早期に察知し、避難の準備を整えることが可能となる。

五氏は、噴火の発生は、予知が不可能であるが、噴火の発生を察知し、避難の準備を整えることが重要である。常時観測体制の導入により、噴火の発生を早期に察知し、避難の準備を整えることが可能となる。五氏は、噴火の発生は、予知が不可能であるが、噴火の発生を察知し、避難の準備を整えることが重要である。常時観測体制の導入により、噴火の発生を早期に察知し、避難の準備を整えることが可能となる。

五氏は、噴火の発生は、予知が不可能であるが、噴火の発生を察知し、避難の準備を整えることが重要である。常時観測体制の導入により、噴火の発生を早期に察知し、避難の準備を整えることが可能となる。



上空からみた焼岳—右方水があるのは旧噴火口、左下噴煙の末端あたりに焼岳小屋がある (18日撮影)



# 焼岳、いぜん活動つづく

## 二回にわたり爆音

### 泥流、大正池に押し出す

焼岳は十九日午後、またも二回にわたる爆音をだした。一方、泥流が大正池に押し出し、十七日夜の爆音に引き続き、焼岳はいぜん無気味な活動をしつづけている。これにたいして松本測候所は「高山測候所から、空気が振動を観測した」との連絡があったが、噴煙、降灰などはほとんど見られず、静寂な山容を呈している。

相模湾の沖合をうらむ焼岳で、十九日午後三時、突然「ドーン」といふ爆音をもち、爆音は二回連続して鳴った。上高地の人たちの睡りは、十七日夜の爆音のときより大きかった。しかし、新しく噴火が起きたか、また降灰もなかつた。

上高地は、十七日夜の爆音も、またも二回にわたる爆音をだした。この爆音は、上高地の山頂から、大正池の方向に押し出した。大正池は、上高地の山頂から、大正池の方向に押し出した。大正池は、上高地の山頂から、大正池の方向に押し出した。

松本測候所は十九日午後三時、焼岳に因る情報を発表した。この爆音は、大正池の方向に押し出した。大正池は、上高地の山頂から、大正池の方向に押し出した。

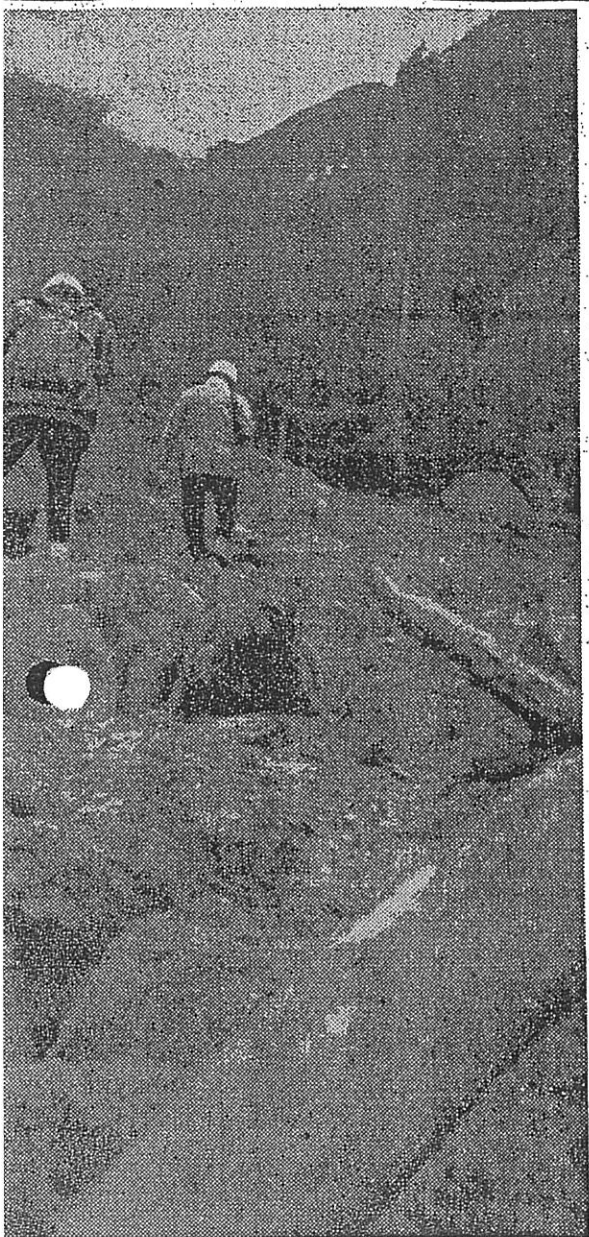
松本測候所は十九日午後三時、焼岳に因る情報を発表した。この爆音は、大正池の方向に押し出した。大正池は、上高地の山頂から、大正池の方向に押し出した。

## 登山を見合わせよ

### 松本測候所が警告口だす

焼岳は十九日午後三時、突然「ドーン」といふ爆音をもち、爆音は二回連続して鳴った。上高地の人たちの睡りは、十七日夜の爆音のときより大きかった。しかし、新しく噴火が起きたか、また降灰もなかつた。

松本測候所は十九日午後三時、焼岳に因る情報を発表した。この爆音は、大正池の方向に押し出した。大正池は、上高地の山頂から、大正池の方向に押し出した。



どともに上上堀沢におし出した泥流(下堀沢付近)

### 小林信大教授

信大地理学部地質学教室の小林信大教授、百瀬寛一助手、東大地理学研究所小崎支所の村井勇助らの一行は、北ア焼岳爆発の原因、この爆発の可能性などを調査するため、きょう二十日午前八時半松本市を出発、焼岳に向かう。



# 焼岳の動静に注意

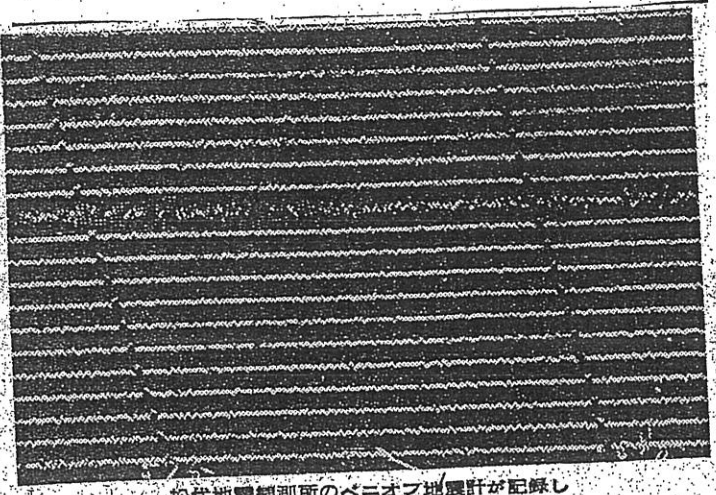
信濃毎日 6/21

信大領事部 地学 教授の小林 大輔に聞く 焼岳の動静

## 焼岳の動静に注意

信大領事部 地学 教授の小林 大輔は二十日、焼岳噴火口付近まで入り、泥流や火山灰、火山弾の状況を調べたが、こんどの噴火

をどうするか、再噴火はあるかなどについて、記者のよき質問を一答をあげた。その中で同教授は「おおくの極光客が訪れる上高地をひかえていくべきではない。こんどの焼岳の動静について各方面から徹底的に調べることがある」と語っている。



松代地震観測所のペニオフ地震計が記録した北ア焼岳爆発による地震波 (南西動)

## 焼岳爆発の地震波を記録

松代地震観測所 十七日夜起きた北ア焼岳の爆発による地震の波を松代の松代地震観測所の地震計がペニオフ地震計の上では、ききとて記録してしまつたが、その記録の様子がわかった。

同観測所の調べによれば、同夜九時五十分から約五分間わたって短い周期の地震を繰り返した。この記録が断続的に記録された。写真の地震波は、実際の震動を約十百倍で拡大してつとめる電磁式のペニオフ地震計がフィルムに記録した東西動の地震波。かなり

――ききとて記録した点を中心に調べると

―― 学生をしてはやくの間接的にさせて噴火の動静をみる。同時に、おおくの極光客が訪れる上高地をひかえていくべきではない。こんどの焼岳の動静について各方面から徹底的に調べることがある」と語っている。

り波はゆるやかに、爆発のすぐまじきとて記録された。約三分間わたって繰り返した。この記録が断続的に記録された。写真の地震波は、実際の震動を約十百倍で拡大してつとめる電磁式のペニオフ地震計がフィルムに記録した東西動の地震波。かなり

―― 粘りが強い。このため震度が

―― 粘りが強い。このため震度が高く、粘りが強い。このため震度が

―― 粘りが強い。このため震度が

―― 粘りが強い。このため震度が

―― 粘りが強い。このため震度が

―― 粘りが強い。このため震度が